

# 地震を学ぶ

## 新潟県の地震の特徴

新潟県は内陸の活断層が多く、昔から各地で地震による大きな被害が発生しています(2004年中越地震など)。また、日本海の海底を震源とする地震(1964年新潟地震など)でも建物倒壊や津波による被害などが発生しています。

さらに、新潟県は豪雪地帯のため、積雪により被害が大きくなる可能性があります。過去、積雪期に発生した地震は1666年(寛文5年)2月の高田地域の地震や2011年3月の長野県北部の地震などがあります。



## 地震で起こること

**建物等の破壊**  
建物、ブロック塀などの倒壊、屋根瓦・窓ガラス・看板などの落下、室内での家具の転倒、割れたガラスなどにより、多くの死者やけが人が発生します。

**地盤の液状化**  
地盤が液体ようになって建物が沈下・傾斜したり、地下のガス・水道管や下水道のマンホールが地上に浮き上がったりします。泥水が地上に噴き出すこともあります。

**水害**  
河川の堤防やため池の堤体が決壊し、建物の破壊・流出や広範囲の浸水被害が発生するおそれがあります。

**土砂災害**  
山の斜面が崩れて人や建物が埋まったり、道路やライフラインが途絶したりします。崩れた土砂が川をせき止め、浸水や土石流を引き起こすおそれもあります。

**火災**  
火気使用中に建物が倒壊したり、壊れた電化製品などが通電した時に、火災が発生するおそれがあります。消火活動が困難となり、大規模な延焼火災になる場合もあります。

**その他**  
電話やインターネット、ライフラインの途絶や交通機関の混乱などが予想されます。

# 新潟県地震被害想定調査

新潟県は令和4年3月に「新潟県地震被害想定調査」の結果報告書を公表しました。

県内で発生する可能性がある9つの大きな地震を想定し、建物被害、人的被害(死者・負傷者など)、ライフライン被害・交通施設被害、避難者数などがどれくらいになるか、科学的な知見に基づいて予測しました。

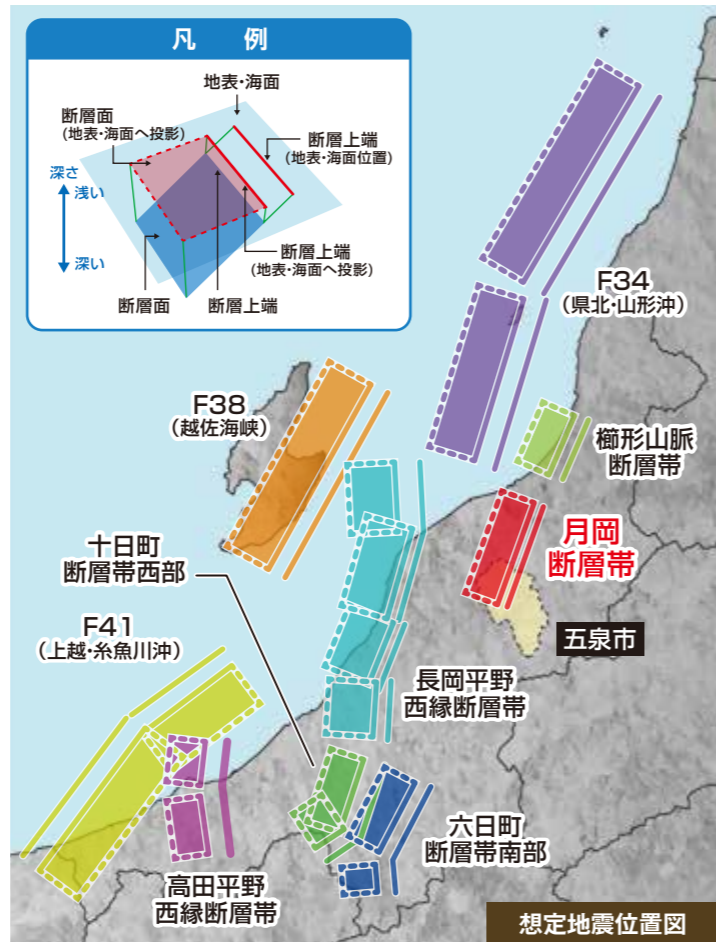
その結果、五泉市が最も大きな被害を受けるのは、「月岡断層帯」を震源とする地震となります。

「月岡断層帯」による主な被害想定結果  
(予測地震規模: マグニチュード7.3程度、最大震度7)

建物被害 (全壊)	揺れ	64,374棟
	液状化	1,290棟
人的被害	死者数	5,006人
	負傷者数	25,804人
避難者		207,936人

※五泉市、新潟市、阿賀野市、新発田市など県内での被害総数です

また、「地震ハザードマップ」もこの調査結果をもとに作成しています。



# 震度と揺れの状況

「最大震度5弱以上」の揺れが予測された場合には緊急地震速報が発表されます。テレビやラジオ、スマートフォン、防災行政無線などで、数秒から数十秒後に地震が来ることを知らせます。

震度5弱	恐怖を覚え、物につかまりたい ●壁などに軽微なひび割れ・亀裂 ●固定していない家具が移動 ●落石・けが崩れ・液状化が発生		震度5弱
震度5強	ものにつかまらなると歩けない ●壁・梁・柱などにひび割れ・亀裂 ●固定していない家具が倒れる ●ブロック塀が崩れる		震度5強
震度6弱	立っていることが困難になる ●建物が傾いたり、倒れることも ●家具が倒れ、ドアが開かない ●壁のタイルや窓ガラスが破損		震度6弱
震度6強	立っていられない・這って動くのがやっと ●建物は傾き、倒れる ●家具のほとんどが倒れる ●地割れ・地すべり・斜面の崩壊		震度6強
震度7	動くことはできない・飛ばされることもある ●さらに多くの建物が傾き、倒れる ●広い地域でライフラインが停止 ●大規模な地割れ・地すべり・斜面の崩壊		震度7

# 我が家の防災対策

## 3つの基本対策

<p><b>1 家屋の耐震化</b> 耐震基準に満たない家屋は耐震化を!</p> <p>死者の大部分は家屋倒壊の「下敷き」です。</p>	<p><b>2 屋内・外の地震対策</b> 家具の固定 (下敷きにならない、避難路を塞がない)</p> <p>ガラスの飛散対策 (窓ガラス、食器棚等)</p> <p>ブロック塀の除去 (フェンスや生け垣に)</p>	<p><b>3 出火防止対策</b> 耐震自動消火装置のないストーブは使わない 火のそばに燃える物を置かない</p> <p>感震ブレーカーの設置 (地震→電源を自動でOFF)</p> <p>一家に一本消火器を!</p>
--	---	---

揺れに弱い古い建物の耐震化(耐震補強)や建て替えを行った場合、建物の倒壊で亡くなる人や避難所などに避難する人を大幅に減らすことができます。

(市では、木造住宅の耐震診断・耐震改修工事費用の一部を助成します。詳しくは都市整備課まで)